

図書案内

2023年 1月号

担当 1-5 田畑 1-7 土地



雪にまつわる本

いよいよ、本格的に雪の季節が始まります。雪に対するイメージは人それぞれですが、良くも悪くも富山県民にとって雪は大変なじみ深いものです。みなさんは、雪の季節をどのように楽しみますか？スキーや雪合戦のように触れて楽しむ、あるいは雪景色を見て楽しむかもしれません。雪を「読んで」楽しむのはどうでしょうか？今回は、寒がりな人でもおすすめの、雪にまつわる本を紹介します。

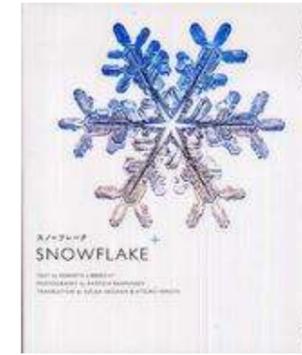


『雪国』 / 川端康成



この小説は、日本人初のノーベル文学賞を受賞した川端康成の代表作だ。親から譲り受けた財産で生活を送る妻子持ちの文筆家・島村が雪国の温泉旅館に通い、駒子という芸者との関係を深める様子が、比喻や背景描写によって綴られている。一度も読んだことがない人は、ぜひこの機会に手に取って読んでほしい一冊だ。(田畑)

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」



『スノーフレイク』

／ケネス・ソブレクト、パトリシア・ラスムッセン他

雪の結晶は美しいことで有名ですが、その種類や構造は意外に知られていません。あんなにも小さいのに、なぜ複雑で緻密な結晶が出来上がるのか？17世紀に研究が始まってからその答えは探し続けられています。説明は専門的で少し難しいですが、多くのページに出てくる雪の結晶の写真を眺めるだけでも楽しめます。(土地)

雪結晶ははかない芸術作品です。



『南極読本 隊員が語る寒冷自然と観測の日々』

／南極OB会編纂委員会



この本は南極がどのような場所で、観測隊員たちは何を調べ、どのような発見・成果があったのかが細かく解説されている一冊です。内容は少し難しいですが、項目ごとに区分されており、一つ一つの文章は短く、短時間で読むことができます。また、興味のある話を読むだけでも楽しめます。ぜひ一度、手に取って読んでみてください。(田畑)

『すべての支援活動を終了する。』



『冷たい校舎の時は止まる』 / 辻村深月



いつも通りに登校したはずの高校生8人が無人の学校に閉じ込められた。外との連絡はとれない。時計は止まっている。いつの間にか学校のフロアが増えている。雪降る中で不可解なことが次々と起こる。どうやら数ヶ月前に起きた事件が関係しているようで・・・

「かがみの孤城」や「凍りのくじら」などの話題作を生み出した辻村深月のデビュー作にして、その世界観を存分に楽しめる一冊。(土地)

あの日から今日までのことは本当に私自身の記憶なのか。
それとも全部嘘の記憶で、実際は・・・



雪の結晶とは



みなさんは、雪の結晶を自らの手で観察したことがありますか？写真などで見たことのある人は多いと思いますが、直接見たことがある人は少ないのではないのでしょうか。そもそも雪の結晶とは、地上数千メートルの上空でできた雲の中にある過冷却状態、つまり低温になっても結晶にならない小さな水滴がちりなどに触れたショックによって氷になって、ちりを中心に成長したものです。そのため、同じ形の雪の結晶は存在しません。

さて、雪の結晶の基本が理解できたところで、手軽な観察方法を紹介します。必要なものは、ルーペ・黒い布・カメラ・マイクロレンズの4つのみです。まず、雪が降ってきたら黒い布を外に出し、外気温と同じくらいに十分に冷たくなったらその布で降ってくる雪を受け止めた後、ルーペなどを使って観察したり写真を撮ったりします。雪の結晶は早く溶けてしまうので日陰で観察を行うのがおすすめです。次に雪が降ったらぜひ挑戦してみてください。(出展 iko-yo.net/articles/72)